

2025年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅡ 講義		必修	講 師	廣瀬 優貴
授業概要	・社会人としての必要な基礎力を高める。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目4コマ)前期3コマ:後期1コマ				
授業目標	・社会人としての必要な知識やスキルを修得し、実践の場で生かそうとする。 ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・書店における絵本の売り場作りの特性について理解する。絵本の流通について理解する。(認定:「絵本と出会う④」関本練) ・絵本が大人に与える影響について理解する。(認定:「大人の心を豊かにする絵本」細江幸世) ・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する。(認定:「ホスピタリティについて学ぶ」近藤学) ・認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本士としての役割や行動すべき子とを理解する。(認定:「ディスカッション」なかむらしんいちろう・鈴木八重子)				
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	保育者に必要とされるコミュニケーション力と、社会人として必要な常識をもち卒業後の将来に向けた具体的な行動ができる。		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
授業方法	・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。				
授業計画	1 4/10 オリエンテーション				
	2 4/17 クラス活動(1)				
	3 4/24【認定絵本士養成講座科目】(1)「絵本と出会う④」担当:関本錬				
	4 5/8 就職に向けて(1)				
	5 5/15【認定絵本士養成講座科目】(2)「ホスピタリティに学ぶ」担当:近藤学				
	6 5/22 就職に向けて(2)				
	7 5/29【認定絵本士養成講座科目】(3)「大人の心を豊かにする本」担当:細江幸世 課題提出→7/29(火)3限に実施(補講期間)				
	8 6/5 就職に向けて(3) オンライン				
	9 6/12 クラス活動(2)				
	10 6/19 クラス活動(3)				
	11 6/26 クラス活動(4) オンライン				
	12 7/3 就職に向けて(4)				
	13 7/10 就職に向けて(5)				
	14 7/17 クラス活動(5)				
	15 7/24 クラス活動(6) 前期終了				
	16 9/25 就職に向けて(6) 後期開始				
	17 10/2 クラス活動(7)				
	18 10/9 クラス活動(8) オンライン				
	19 10/16 就職に向けて(7)				
	20 10/23 就職に向けて(8)				
	21 10/30 就職に向けて(9)				
	22 11/6 クラス活動(9)				
	23 11/13 クラス活動(10)				
	24 11/20 クラス活動(11) オンライン				
	25 11/27【認定絵本士養成講座科目】(4)「ディスカッション」担当:なかむらしんいちろう・鈴木八重子				
	26 12/4 就職に向けて(10)				
	27 12/11 就職に向けて(11)				
	28 12/18 就職に向けて(12)				
	29 1/15 クラス活動(12)				
	30 1/22 クラス活動(13)				
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト				
参考文献					
担当教員の専門分野等	廣瀬 優貴:クラス担任、実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○関本練:書店における絵本の売り場作り、及び、絵本の流通に出版に精通した者 ○細江幸世:絵本作家、絵本研究家、絵本をめぐる活動に精通した者 ○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者 ○なかむらしんいちろう:講座責任者 ○鈴木八重子:前講座責任者				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育と外国語		必修 講義	講 師	玉置 充佳
授業概要	保育で使う基本的な英会話の習得 英語の絵本の読み聞かせに慣れ親しむ 英語の歌と手遊びに慣れ親しむ 初対面の英会話の体験 Show and Tellスキルの体験				
授業目標	保育現場で使われる様々な英語表現をアクティビティを通して習得する。 保育現場で使える手遊びを実演しながら慣れ親しむ。 英会話の基本である初対面会話を実演しながら習得する。 Show and Tell をグループワークで体験する。 英語の絵本を様々なツールを介して慣れ親しむ。				
到達目標1	現場で使える必要最低限の英語表現を使うことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験 (50点)		
到達目標2	基本的な初対面英会話ができる。 現場で使えるアクティビティ体験し、活かすことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	オーラル試験 初対面会話(15点) 発表 自己紹介(10点) show&tell (10点) 提出物 ミニ絵本 (5点) 絵本 (10点)		
授業方法	保育で活用できる実践的英語の基礎知識を学習。 ・保育現場のシチュエーションに合わせた英語のコミュニケーション学習 ・幼児の英語を使った指導に使える基礎知識(歌、絵本の読み聞かせ、Show and Tell)				
授業計画	1 コミュニケーションキー 歌、褒め言葉、自己紹介				
	2 幼保英語検定 歌、励まし言葉、フォニックス 自己紹介パタパタ絵本と発表				
	3 世界の幼稚園 文の構成 初対面会話				
	4 Halloween 保育で使う公園での会話				
	5 世界のBENTO 保育で使う食事の会話				
	6 世界のトイレ 保育で使うトイレ／身支度の会話				
	7 Valentines 保育で使うその他の場面の会話				
	8 オーラルテスト 初対面会話				
	9 Christmas 総合復習				
	10 いろいろなIntelligence フォニックス 復習				
	11 筆記試験				
	12 Show and Tell MY 辞典				
	13 絵本の読み聞かせ MY 辞典				
	14 外国語				
	15 外国語				
必須テキスト	専用テキスト1冊 English for Use in Nursery Schools 保育園・幼稚園の先生に役立つ英語				
参考文献					
担当教員の 専門分野等	小学校、中学校アメリカにて就学 高校インターナショナルにて就学 [専門指導分野/指導年数] 幼児英語/25年、児童英語/40年、中高英語/30年、一般英語/30年、ビジネス英語/20年、英検/30年				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	25 %	

2025年度 講義要綱

科 目	体育実技		必修 講義	講 師	高見 美恵子
授業概要	乳幼児期・児童期に必要なかつ効果的な、「コーディネーション運動」及び、子どもたちが楽しみながら参加するための実践技法である、「共感するコーチング」について理解し実践できる技能を身につける。				
授業目標	1. コーディネーション運動と関連する科学的根拠についての知識を習得する。 2. 共感するコーチングと関連する科学的根拠についての知識を習得する。 3. 共感するコーチングを活用しコーディネーション運動を実践する。 4. 立てたねらいに沿った実践案を作成し実践する。				
到達目標1	コーディネーション運動と共感するコーチングおよび関連する科学的根拠について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、講義内容に関する筆記試験(20点)		
到達目標2	各コーディネーション能力を向上する実践案の作成と共感するコーチングを活用した実技の実践ができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ学習の主体性(10点)、実践案(10点)、実技試験(15点)、振り返りシート(15点)		
授業方法	実技、グループ学習、オンライン授業を含む				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持物等の説明、授業の進め方の確認)、コーディネーション運動について				
	2 コーディネーション運動の体験				
	3 乳幼児期・児童期におけるコーディネーション運動の重要性と【5つの能力】について				
	4 【5つの能力】向上のための実践				
	5 【5つの形式】【遊びの4要素】について				
	6 【5つの形式】【遊びの4要素】の実践				
	7 実践技法【5つの共感するコーチング理論】について①				
	8 実践技法【5つの共感するコーチング理論】の実践①				
	9 実践技法【5つの共感するコーチング理論】について②				
	10 実践技法【5つの共感するコーチング理論】の実践②、実技試験グループ分け				
	11 実技試験に向けた実践案作成①				
	12 筆記試験				
	13 実技試験に向けた実践案作成②				
	14 実技試験と振り返り①				
	15 実技試験と振り返り②				
必須テキスト	楽しみながら運動能力が身につく！ 幼児のためのコーディネーション運動 明治図書出版株式会社				
参考文献					
担当教員の専門分野等	「実技経験のある教員による授業」に該当。 保育園・地域学習センター・児童館・主催教室などの親子・幼児・児童・シニア対象講座にてコーディネーション運動講師を担当。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	情報機器の操作 必修 講義		講 師	大崎 健一	
授業概要	パソコン及びオフィスソフトの基本操作、プレゼンテーション技法、ITリテラシーの基礎について学習する。また、平行して、個人の「考える力」を伸ばす授業を実践する。				
授業目標	オフィスソフト(Word、Excel、PowerPoint)の基本的操作やプレゼンテーションの基本技法を理解し、実務での活用できるようになる。 ITリテラシー(情報モラル、コンピュータ、ネットワーク)を理解し、インターネットやIT機器を安全に活用できるようになる。				
到達目標1	・Word、Excel、PowerPointを用いて、基本的な資料が作成できる。 ・PowerPointを用いたプレゼンテーションができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	・授業の課題提出(60%) ・最終課題(プレゼンテーション)の提出、発表(20%)		
到達目標2	・情報モラルを学び、インターネットを安全に活用できる。 ・コンピュータ、ネットワークを学び、IT機器を安全に活用できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・リアクションペーパーの提出(20%)		
授業方法	PC操作の実習、及びオンラインによる座学。各回、授業中に提示された課題またはリアクションペーパーを準備し提出する。 最終課題では、プレゼンテーションを実施する。				
授業計画	1 オリエンテーション、パソコン基礎操作(マウス操作、エクスプローラー、日本語入力)				
	2 Word(基本操作)				
	3 オンライン(情報モラル1)				
	4 Word(ビジネス文章)				
	5 Word(画像や図形)				
	6 Excel(基本操作)				
	7 Excel(書式設定)				
	8 Excel(関数①)				
	9 オンライン(情報モラル2)				
	10 Excel(関数②)				
	11 Excel(グラフ)				
	12 PowerPoint(基本操作)				
	13 PowerPoint(発表準備)				
	14 PowerPoint(発表準備)				
	15 発表				
必須テキスト	なし。資料はTeamsで事前配布。操作に不安がある人は印刷しておいてください。				
参考文献	なし				
担当教員の専門分野等	IT企業にて、エンジニアからマネジメントまで従事、現在はIT講師及びITのWeb教材開発を行う。修士(日本語教育学)、わかりやすい日本語やIT日本語についての研究・発表を行う。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援論		必修 講義	講 師	前川 洋子
授業概要	家庭という視点から支援のあり方を理解する。家庭生活を取り巻く様々な社会的状況について把握し、問題の所在や支援方法を学ぶ。社会福祉の視点も含み、家庭支援の基本的な知識と専門性について学ぶ。				
授業目標	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
到達目標1	家庭支援を基盤に保育士の行う相談等の意義と資源の活用、関係機関との連携を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、理解度確認の小テスト課題(30点)		
到達目標2	ニーズに応じた多様な支援の展開と家庭支援の現状、課題を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)		
授業方法	講義型 ICTを活用した理解度チェックとフィードバックを行う。 地域の子育て家庭支援策のレポート提出と発表を行います。				
授業計画	1 1.オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性				
	2 2.家族システムと家庭 家庭機能の低下				
	3 3.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義				
	4 4.保護者との相互理解と信頼関係の形成				
	5 5.保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援				
	6 6.支援における保育士の基本的態度				
	7 7.子育て家庭の抱える課題の理解と支援家庭の状況に応じた支援				
	8 8.地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力				
	9 9.子育て家庭の福祉を図るための社会資源				
	10 10.国策・自治体の子育て支援策及び子ども家庭支援に関わる法律				
	11 11.多様な支援の展開と関係機関との連携				
	12 12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援				
	13 13.地域の子育て家庭への支援 レポート発表1				
	14 14.要保護児童等及びその家庭に対する支援 レポート発表2				
	15 15.子ども家庭支援に関する日本の現状と課題 世界の子育て支援国際比較より 総まとめ				
必須テキスト	松本園子、永田陽子他『子ども家庭支援論』ななみ書房 2023年				
参考文献	谷田貝公昭 監修 和田上貴昭 他編著 『子ども家庭支援論』一藝社 2020年				
担当教員の専門分野等	教育カウンセラーとして子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員。大学通信教育テキスト『こども家庭支援論』『特別支援教育』他、『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房他執筆				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	40 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育者論		必修 講義	講 師	石原 成
授業概要	保育所保育指針や資料から保育者として求められる専門性やの力量形成などの在り方について理解し、考察する。 保育者としての理想の姿を明確にする。				
授業目標	1. 保育者の役割と倫理的配慮について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。				
到達目標1	保育者(幼稚園教諭、保育士、保育教諭)の職務内容や専門性について理解し、保育の実践への構想が出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(15点)、中間の課題(35点) (授業態度や授業内課題の提出)		
到達目標2	保育者になるための自分の課題や今後のキャリアについて理解し、理想を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(15点)、まとめのレポート(35点) (授業態度や授業内課題の提出)		
授業方法	保育所保育指針を基に作成されたパワーポイント資料を使う講義方式 講義内容に沿ったグループワークや話し合い、保育演習				
授業計画	1 オリエンテーション(自己紹介・シラバスの確認) 保育者の存在意義と保育者の定義				
	2 保育者として生きる(現代的な課題) 保育者の倫理と欠格事由				
	3 保育者に求められる専門性について①				
	4 保育者に求められる専門性について②				
	5 保育者に求められる専門性について③				
	6 保育者に求められる専門性について④				
	7 保育実践の場を学ぶ①遊びを援助する保育者				
	8 保育実践の場を学ぶ②遊びを援助する環境の構想				
	9 保育実践の場を学ぶ③環境の構想発表				
	10 保育実践の場を学ぶ④保育記録の種類と特性				
	11 保育実践の場を学ぶ⑤保育の危機・安全管理				
	12 保育者の連携と協働①チーム園としての同僚性				
	13 保育者の連携と協働②専門機関や地域と				
	14 保育者としてのキャリア形成 ワーク作成①				
	15 まとめ 理想の保育者像 ワーク作成②				
必須テキスト	指定なし				
参考文献	授業内で紹介				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。私立幼稚園勤務14年。 保育現場における、「教育課程」の立案と「保育記録」について、研究。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援の心理学 必修 講義		講 師	藤高 直之	
授業概要	様々な福祉施設の実習経験から、各現場の「実際の支援/実践」の様子、「支援の視点」「支援の特徴」等、学びをまとめて発表し、他者と共有する。子ども、子育てをめぐる現状や、多様な支援の在り方への理解を深める。				
授業目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。				
到達目標1	自らが実習した現場の実践や、支援特徴についてまとめ、発表することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加姿勢(25点)、貢献度(25点)、発表(20点)		
到達目標2	自他の発表から学び、自らの考えや適性、自らが目指す支援者像について考察できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各発表後の振り返りシート(15点)、学期末まとめシート(15点)		
授業方法	発表資料、コメント作成を伴う講義受講				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明)				
	2 グループワーク(各自の経験、グループ内共有)				
	3 グループワーク(発表に向けて)				
	4 グループワーク(発表資料の作成)				
	5 グループワーク(発表資料の作成)				
	6 発表①				
	7 発表②				
	8 発表③				
	9 発表④				
	10 発表⑤				
	11 発表⑥				
	12 発表⑦				
	13 発表⑧				
	14 発表⑨				
	15 まとめ				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	子ども家庭福祉(主に子育て支援)が専門。大学教員と並行して社会福祉士及び保育士として、大学付属の子育て支援センターで活動中。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・健康		必修 講義	講 師	真砂 雄一
授業概要	・領域「健康」に関する「ねらい」と「内容」を理解し、乳幼児の発達段階を踏まえた保育者の関りや役割について学ぶ。 ・乳幼児を取り巻く健康についての現状を知る。 ・子ども達に必要な運動遊びについて知る。				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「健康」の「ねらい」「内容」について理解したことを説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、課題提出の回数、内容(20点)、レポート試験(20点)		
到達目標2	基本的生活習慣とその獲得、子どもを取り巻く健康についての現状と安全、子どもの発育発達を促す運動遊びについて理解したことを説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、課題提出の回数、内容(20点)、レポート試験(20点)		
授業方法	授業は、オンラインで行う講義と対面での講義のアクティブラーニング・スタイルで行う。 授業の進行状況等により、順番や内容を変更する可能性あり。 その場合は、必ず授業内等で事前に案内する。				
授業計画	1 ガイダンス、乳幼児の「健康」の現状と課題				
	2 保育内容5領域と領域「健康」の考え方				
	3 子どもの遊び①(言葉の遊び、指先の遊び)				
	4 子どもの身体の発育(形態的発育／生理的機能の発達)				
	5 乳幼児期の運動能力と動きの獲得				
	6 子どもの遊び②(運動遊び)				
	7 乳幼児の怪我や事故				
	8 領域「健康」の理解と指導法(オンライン)				
	9 子どもの遊び③(ワーキングメモリ、反射神経)				
	10 乳幼児期の基本的生活習慣の形成				
	11 保育における保健計画:保健だよりの作成(オンライン)				
	12 安全指導と安全への配慮(災害の備え)				
	13 養護と健康、小学校教育とのつながり				
	14 保育におけるリスクとハザード、ハザードマップ作成				
	15 子どもの健康まとめ、レポート試験				
必須テキスト	特になし(授業中に配布、オンライン上に資料を掲示)				
参考文献	『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(チャイルド社)				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 長年保育現場で幼児体育指導員、保育士への運動指導アドバイザーをしており、今現在も保育園で子どもたちに運動遊びを教えている。 小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験もあり。 現在は、保育系短大の学科長を務め、幼児体育や健康を担当する教授として勤務。 専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・人間関係		必修 講義	講 師	小林 桂子
授業概要	・乳幼児期にみられる人間関係において、多方面からの支援と自立への導きについて。 ・保育を取り巻く人間関係について、実践を踏まえ、理解を深める。 ・すぐに使えるように！人間関係に関わる手遊び、ゲーム等の技術の習得。				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	・子どもの人間関係で、「この問題(経験)から何を得ることができるのか(どのような生きる力を身につけられるのか)」という視点で考えることができる。又、保護者との関わり方を考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	・人間関係において、保育現場を想定して考えられているか、授業後の課題の提出(50点)		
到達目標2	・子どもたちの人間関係において保育者が「気づく力」「考える力」を身につけることができる。 ・人間関係を築いていく上で「心の自立」「人と関わる力」がなぜ大切なのかを理解し、そのための支援の方法を考え、説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・授業内容やグループワークで自分なりの気づきや考えを記入(30点) ・講義内容に関する筆記試験(20点)		
授業方法	PowerPoint、資料プリントを使用。グループワーク等。				
授業計画	1 オリエンテーション授業概要(目標・評価等の説明) 2 人間関係の第一歩は「自分と向き合う」こと 子どもや保護者と向き合うために自分を知ることの大切さを考えます 3 保育における信頼関係について① 「信用の関係」「信頼の関係」から保育で何が大切な関係なのかを考えます 4 保育における信頼関係について② 「ほめる」「叱る」は本当に子どもの心に届いているのか・どのような対応ができるのか考えます 5 「ごめんね」「いいよ」は本当の解決なのか・子どもが、自分や相手の気持ちに向き合った対応を考えます 6 「いじわる」が起きた時にどのような向き合いや対応が大切なのかを考えます 7 クレーム等の事例から悩む保護者にどのような対応ができるか考えます 8 いい子が陥りがちな人間関係を事例をもとに「大切なことは相手にとっていい子であることなのか？」を考えます 9 発達段階で子どもが「相手の立場に置き換えて考えること」の難しさを「ヒーローごっこ(たたかいごっこ)」を事例に考えます 10 子どもの主体性(自らやってみたい！)を生み出す言葉かけを考えます 11 人間関係におけるボードゲーム(SSTにも使われている)の活用から得られる人間関係を考えます 12 その関わりは本当に子どもを尊重しているのか？事例や資料、講師の失敗談から尊重し合う人間関係を考えます 13 子どもの月齢・特性・発達・それぞれに違う人間関係の育ち・今日的課題を考えます 14 人間関係における集団あそびの有効性・試験対策 15 筆記試験(考えて答える記述式・ノート・資料プリントのみ持ち込み可)				
必須テキスト					
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにて配布します。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 幼稚園、保育、児童センター(大型児童館)、現在は放課後児童支援員、短期大学非常勤教員として勤務。保育の現場に30年以上携わっています。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・環境		必修 講義	講 師	村山 久美
授業概要	乳幼児を取り巻く環境(自然・モノ・事象・文字、記号・地域・文化)に着目し、これらが子どもの発達に重要な役割を果たすことを理解する。				
授業目標	1. 子どもを取り巻く環境を理解する。 2. 乳幼児の発達に応じた「環境」のねらい及び内容を理解する。 3. 環境構成や保育実践の展開を理解する。				
到達目標1	領域「環境」のねらい、内容を理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) 講義内容に関する筆記課題(30点)		
到達目標2	保育に関する環境への関心を深め、子どもの発達に即した保育実践を考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点) 発表、レポート(30点)		
授業方法	講義(ICTの活用、協働学習を含む)				
授業計画	1 オリエンテーション(講義の概要とねらい)				
	2 子どもを取り巻く環境				
	3 身近な環境との関わり、感性の育ち				
	4 モノともかかわりを通して生まれる育ち(学び)				
	5 自然ともかかわりを通して生まれる育ち(学び)				
	6 社会ともかかわりを通して生まれる育ち(学び)				
	7 領域「環境」のねらい及び内容				
	8 乳児保育における環境とのかかわり				
	9 モノともかかわりを支える保育の展開				
	10 自然ともかかわりを支える保育の展開				
	11 社会ともかかわりを支える保育の展開				
	12 領域「環境」と小学校教育のつながり				
	13 現代的課題と保育				
	14 子ども・保育者・保護者の育ちあい、まとめ				
	15 試験				
必須テキスト	ミネルヴァ書房『保育内容「環境」』				
参考文献	保育所保育指針				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、『神奈川県保育士実技講習会 言語表現』テキスト執筆。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・言葉		必修 講義	講 師	佐藤 博美、吉田 裕子
授業概要	保育内容演習・言葉(該当6回) 認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当9回)				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。 ・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する。乳幼児が絵本に触れる為の具体的取り組みについて理解する。 ・保育、教育の現場における絵本の意義について理解する。(認定:「絵本と出会う①」「絵本と出会う②」佐藤博美・佐藤めぐみ・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸)・子どもの興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」細江幸世)・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」千葉幸 絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する(認定:「絵本の世界を広げる技術①」江花志乃)・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営にかかわる手法を体得する。(認定:「おはなし会の手法①」近藤千春)・「おはなし会」のテクニックについて理解する。「おはなし会」のテクニックを体得する。(認定:「おはなし会の手法②」高田ちとせ)・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係わる情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか)・各年齢期の子どもの発達と絵本の関わり特性について理解する。(認定:「絵本各論③」佐藤博美・佐藤めぐみ・遠藤祐太郎)				
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点		
到達目標2	[吉田先生]発達を理解し、それに合わせた言葉がけや遊びを習得する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	[吉田先生]出席18点(3点×6回)、毎回の課題・感想24点(4×6回)、態度8点		
授業方法					
授業計画	1 4/9(火)1限【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う①」担当:遠藤祐太郎 2 4/16【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う②」担当:遠藤祐太郎 3 4/24(水)3限【認定絵本士養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世 4 5/14 吉田先生①オリエンテーション 保育内容【言葉】とか何か 愛着形成について 5 5/21 吉田先生②言葉の経験とわらべうた 6 5/28【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:千葉幸 課題提出 7 6/4【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術①」担当:江花志乃 8 6/11(火)1限 吉田先生③伝わる言葉、伝わらない言葉 9 6/12(水)3限【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:近藤千春 課題提出 10 6/18 吉田先生④気になる言葉の遅れがある子どもと保育内容と支援方法やグッズの紹介 11 6/25 吉田先生⑤文字の取り組みについて 実践例と言葉遊び実践 12 7/2 吉田先生⑥まとめ 言葉がけの大切さ 13 7/9【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法②」担当:高田ちとせ 課題提出 14 7/17(水)3限【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか 15 7/23【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論③」担当:遠藤祐太郎				
必須テキスト	【認定絵本士養成講座科目】 認定絵本士養成講座テキスト				
参考文献					
担当教員の専門分野等	吉田裕子 ○佐藤めぐみ・佐藤博美・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸:赤ちゃん絵本、ブックスタートなど地域での育児支援活動や家庭での絵本の読み聞かせの現状に精通した者・保育、幼児教育現場及び学校現場における子どもと絵本の関りの現状に精通した者・子どもの知的、社会的発達と絵本の関りに関する専門的知識を有する者 ○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者○千葉幸:図書館や学校などにおいてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者 ○江花志乃:絵本検索に係るIT技術及び図書館レファレンスサービスの双方について専門的知識を有する者○近藤千春:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○高田ちとせ:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○井上まどか:あらゆる分野の絵本について精通しており、図書館または書店等において絵本の提案を行っている実践経験を持つ者				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・表現		必修 講義	講 師	竹田 えり
授業概要	手遊び・歌遊び・リズム遊びなどを通じて子どもの表現の育ちと保育者の役割について学ぶ。様々な応用を考え、表現の幅を広げていく。劇遊び、エプロンシアター、パネルシアターなどの演技バリエーションも学び実践する。				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	教育実習・就業先等で即実践できる歌遊びのレパトリーを広げ、現場で幅広く対応できる。		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	到達目標1に対する評価(方法及び配点) ◆教科書やネットなどから新しく学んだ遊びを6作品以上、レパトリーとして習得すること。 自作の創作あそびも歓迎します。 授業への取り組み＋授業時間内での課題提出(45点)＋オリジナルの遊びなど創意工夫のある取り組み(5点)＝合計(50点) 意欲的・積極的な取り組みを期待し、評価します。	
到達目標2	具体的な保育場面を想定し、常に元気な明るい表情と声で子どもと向き合うことができる		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	到達目標2に対する評価(方法及び配点) ◆どんな場面でも積極的に明るく笑顔で人前に立てるように意識し、授業内での発表や実技試験での表現力を通して評価する。実技試験(30点) ◆毎回の授業での発表では、グループ内で互いに協力しながら、工夫を凝らした表現を行う姿勢を重視する(20点) 計50点 到達目標1+2 合計 100点	
授業方法	実践の繰り返しを重視。教科書や参考文献などの歌遊び・劇遊び・パネルシアター等を学び表現力をつける				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 2回目より、3～13回の内容を複合的に取り入れながら進めるが、各回の主題に応じて柔軟に組み合わせる。 3 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び【1】 4 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び 【2】 5 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び 【3】 6 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び 【4】 7 わらべうた ・手話ソング 8 タオルあそび 9 9. 読み聞かせ 表現方法 朗読のバリエーション 10 エプロンシアター・てぶくろシアター 11 パネルシアター・ブラックパネルシアター・ホワイトボードシアター 12 劇遊び・オペレッタ 表現指導方法 13 劇遊び・オペレッタ(衣装作り・実演) 14 実技試験 15 総括 振り返り 卒業ソングなど				
必須テキスト	「あつまれハート」メイト社				
参考文献	CD「ハートキラキラ」「ハートハッピー」「ふれあいタオルあそび」全て図書室で利用可能。				
担当教員の専門分野等	長年にわたり保育士向けのセミナーや研修会で講習指導。手遊び・歌遊び・劇遊び・パネルシアターを研究。オペレッタ「いつまでもとどち」「北風と太陽」等 多数出版(メイト社)				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊びⅠ		必修 講義	講 師	なかむらしんいちろう、 乙川 智子
授業概要	[乙川]手話を学ぶことにより表情やコミュニケーション能力を高め、聴覚障害者・児に対する接し方を学ぶ。(該当科目3コマ) 【認定絵本土養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目11コマ) 【課題作成】(該当科目1コマ)				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。 【認定絵本土養成講座科目】 「認定絵本土養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる」 ・「絵本」をめぐる行為について理解する、「絵本」の定義の捉え方について理解する、「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する(認定:「絵本総論」課題 中村真一郎) ・世界の絵本の歴史について理解する、日本の絵本の歴史について理解する、絵本賞について理解する(認定:「絵本各論①」課題 中村真一郎・田部井佳代) ・絵本の視覚表現特性について理解する、絵本の言語表現特性について理解する(認定:「絵本各論②」課題 中村真一郎・いのうえちひろ・山田花菜) 以下、文字数に制限があり未記入。				
到達目標1	言葉(手話や絵本)に関する知識や技術を習得し実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み方や授業中の意欲的な学ぶ姿勢、課題提出など＝合計(50点)		
到達目標2	【認定絵本土養成講座科目】認定絵本土養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への熱心な取り組み。課題のある場合は期日までに提出。 50点【「絵本総論」「絵本各論①」「絵本各論②」「絵本各論④」「絵本が生まれる現場①」】は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本土養成講座科目】に出席となります。		
授業方法	講義・実技				
授業計画	1 4/11(金)3限【認定絵本土養成講座】絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本)課題あり 担当:山田 2 4/18【認定絵本土養成講座】絵本総論(絵本とは何か)課題あり 担当:中村 3 4/25 [乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習 4 5/9(金)休講→8/1(金)2限【認定絵本土養成講座】絵本が生まれる現場② 担当:横山雅代 5 5/16(金)[乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習 6 5/23【認定絵本土養成講座】さまざまなジャンルの絵本①(物語の絵本) 担当:山田 7 5/30【認定絵本土養成講座】絵本のもつ力(様々な角度から絵本を見る) 担当:山田 8 6/6 休講→7/25(金)3限[乙川]保育園またはアルバイト先で使用する会話練習、まとめ オンライン 9 6/13【認定絵本土養成講座】絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ)課題あり 担当:手塚けんじ 10 6/20【認定絵本土養成講座】絵本が生まれる現場①(作家の感性に触れる) 課題あり 担当:山田 11 6/27 課題作成 担当:中村 オンライン 12 7/4【認定絵本土養成講座】さまざまなジャンルの絵本③(科学絵本) 担当:手塚けんじ 13 7/11【認定絵本土養成講座】心に寄り添う絵本 担当:細江幸世 14 7/18【認定絵本土養成講座】絵本各論①(絵本の歴史、絵本賞について)課題あり 担当:中村 15 7/25(金) 乙川先生(6/6 休講分の実施)【認定絵本土養成講座】さまざまなジャンルの絵本②(昔話童話の絵本) 担当:横山→8/1(金)3限				
必須テキスト	乙川:特に指定なし【認定絵本土科目】認定絵本土養成講座テキスト				
参考文献	乙川:適宜プリントを使用する。【認定絵本土科目】適宜紹介する。				
担当教員の専門分野等	【乙川】「実務経験のある教員による授業」30年以上にわたり手話指導並びに手話通訳活動中【認定絵本土養成講座担当講師】○中村:絵本をめぐる活動に精通した者／絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者／絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者／絵本作家、童話と作家して豊富な経験を持つ者／物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者／昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○いのうえちひろ・山田花菜:絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者／絵本作家、童話作家として豊富な経験を持つ者／物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者／絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○手塚けんじ:情報メディアとしての絵本の特性および我が国著作権制度と絵本の関わり、電子書籍と脳科学に関する専門的知識を有する者など ○千葉:科学絵本などに関する専門的な知識を有する者など ○田部井佳代:絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者／昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○横山雅代:絵本・紙しばい、児童文学の編集業、以下文字数に制限があり未記入。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	0 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	0 %	
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %	
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	100 %	

2025年度 講義要綱

科 目	障害児保育		必修 講義	講 師	今泉 岳雄
授業概要	障害児保育を支える理念や各障害の特性を理解し、保育現場やその他の場において、障害児やその保護者をどのように支援していったらよいかを学ぶ。				
授業目標	①障害児保育を支える理念を身につける。 ②各障害の特性や支援方法を理解する。 ③障害児やその保護者を援助するための指導計画を作成できる。				
到達目標1	障害児保育を支える理念を身につけ、障害児やその保護者を援助するための指導計画を作成できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点		
到達目標2	各障害の特性や支援方法を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点		
授業方法	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点				
授業計画	1 障害の捉え方と障害児保育の歴史				
	2 障害児保育の基本				
	3 発達障害の理解と支援①				
	4 発達障害児の理解と支援②				
	5 発達障害児の理解と支援③				
	6 障害児を持つ保護者や家族に対する支援				
	7 知的障害児の理解と支援				
	8 肢体不自由児の理解と支援				
	9 視覚障害・聴覚障害児の理解と支援				
	10 その他の特別な配慮を要する子どもや保護者の理解と支援				
	11 てんかんの理解と支援				
	12 知的に高い自閉症者の映像視聴				
	13 言語障害・病弱・虚弱・食物アレルギーを持つ子どもや保護者の理解と支援				
	14 障害児保育を支える記録・評価・支援計画				
	15 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題・まとめ				
必須テキスト	各授業前にteamsファイルに掲示する資料を読んでおくこと				
参考文献	「障害児保育・・・子どもとともに成長する保育者を目指して・・・」藤永保監修 阿部五月他著 萌文書林 授業中に必要に応じて資料配布				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。「心理学のエッセンス」(日本評論社)、「ハッピー育児セラピー」(学習研究社)、「パパにもわかる子育ての本」(実業之日本社)、他出版。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2024年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 講義		講 師	北川 裕子	
授業概要	施設や保育士の役割や援助等、基礎的な内容について具体的に学ぶ。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。				
授業目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。				
到達目標1	施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)		
到達目標2	虐待の防止、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)		
授業方法	事例研究やロールプレイ、児童自立支援計画の立案等を通し、保育現場での実践力を身につけられるような学習を取り入れる。				
授業計画	1 養護の基本原理等の復習、子どもの権利擁護				
	2 保育士の資質と倫理・責務、チームワーク				
	3 施設養護の生活特性および実際 ①入所、日常生活援助				
	4 施設養護の生活特性および実際 ②集団生活、家族調整				
	5 施設養護の生活特性および実際 ③自立支援				
	6 産学連携				
	7 施設養護の生活特性および実際 ④退所、アフターケア				
	8 施設養護の生活特性および実際 ⑤記録の意味、個別支援計画の作成、自己評価				
	9 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ①心理的支援				
	10 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ②被虐待児への支援、親への支援				
	11 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ③障がい児への支援、親への支援				
	12 産学連携				
	13 里親等の家庭養護の特性及び実際				
	14 今後の施設の方向性(小規模化等)				
	15 今後の社会的養護の方向性(家庭的養護の推進、地域との関わり、展望等)				
必須テキスト	なし				
参考文献	「児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ」吉田眞理著 萌文書林「図解で学ぶ保育」社会的養護Ⅱ」原田旬哉他 萌文書林				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	15 %	

2025年度 講義要綱

科 目	子育て支援 必修 講義		講 師	土屋 多恵子
授業概要	子育てに関わる社会環境の変化について理解するとともに、子育て支援の必要性について学ぶ。 子どもや保護者を支えるために、保育者として何が求められるのかについて学び、保育実践力を高める。			
授業目標	1.保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の揭示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2.保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。			
到達目標1	子育ての多様な課題について分析し、受容、共感をもとに、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(50点)	
到達目標2	保育者と子ども・保護者をつなぐツールや視覚的なアプローチを作成し、保育実践することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(10点)、 子育て支援における掲示物作成(40点)	
授業方法	ワークシート作成を伴う講義。講義と並行して、事例検討、子育て支援へのアプローチを具体的に行い、実践力を養う。			
授業計画	1 オリエンテーション「子育て支援とは?」(授業概要・目標・評価・持物等の説明)			
	2 子どもの保育とともに行う保護者支援			
	3 保護者との相互理解と信頼関係の形成			
	4 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解			
	5 子ども・保護者が関わる場や機会			
	6 子ども及び保護者の状況・実態の把握①支援の気づき			
	7 子ども及び保護者の状況・実態の把握②支援計画・記録・評価・カンファレンス			
	8 職員間の連携・協働			
	9 社会資源の活用①自治体・関係機関や専門職との連携・協働			
	10 社会資源の活用②地域の子育て家庭に対する支援			
	11 障害のある子どもおよびその家庭に対する支援			
	12 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援			
	13 子ども虐待の予防と対応・要保護児童の家庭に対する支援			
	14 まとめ・これからの子育て支援			
	15 学期末試験			
必須テキスト				
参考文献	授業内で適宜紹介。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。 主任児童委員として地域における支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育実践演習 必修 演習		講 師	菊池 一英
授業概要	保育に関する興味のある様々なテーマについて、幅広い視野をもって、主体的に関わる姿勢を養う。興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を行う。テーマ設定について、他者に根拠を明確に示し、伝える能力を身に付ける。また、ディスカッションを通して、他者の意見を取り入れながら問題の解決の糸口を見つけ出していく方法を体験的に学ぶ。			
授業目標	1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。			
到達目標1	保育現場における現代的テーマについて、考察することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	ワークシート記入および提出(50点)	
到達目標2	テーマについて、調査・分析・考察・プレゼンテーションする技術、能力を身に付けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題提出及びプレゼンテーション能力(50点)	
授業方法	①ワーク記入を通して、保育力向上を目指す。 ②選択課題を通して、現場の即戦力につなげる。 ③ドキュメンテーション作成を通して、考察する力を養う。			
授業計画	1 オリエンテーション ～保育実践演習の進め方～			
	2 テーマの設定(自分の興味を探る)			
	3 テーマの設定(グループディスカッションでテーマを決める)			
	4 文献検索(論文、書籍、雑誌、ジャーナル等)			
	5 文献検索(論文、書籍、雑誌、ジャーナル等)			
	6 ★中間報告発表会(グループごと)			
	7 文献検索及び、研究レポート・発達資料作成(文集orパワーポイント)			
	8 文献検索及び、研究レポート・発達資料作成(文集orパワーポイント)			
	9 文献検索及び、研究レポート・発達資料作成(文集orパワーポイント)			
	10 文献検索及び、研究レポート・発達資料作成(文集orパワーポイント)			
	11 ★研究発表会(7人)			
	12 ★研究発表会(7人)			
	13 ★研究発表会(7人)			
	14 ★研究発表会(7人)			
	15 ★研究発表会(7人)			
必須テキスト	特に指定なし 適宜資料を配布する			
参考文献	特に指定なし 適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。保育現場へスーパーバイザーとして保育への指導・助言を行っている。また、東京大学大学院理学部生物学科に聴講生として通学し、進化学、動物発生学の研究を続けている。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	子どもと遊び		選択必修 講義	講 師	荒巻 シャケ
授業概要	講師の専門のあそび歌を中心にしながら、布・紙など身近な物を使った遊び、アナログゲーム、パネルシアターなど様々な遊びを実際に体験する中で、遊びについてじっくり考えたり、グループワークを通して視野を広げていく。 また、あそび歌・パネルシアターにおいては、学んだことを実践につなげられるように発表の機会を設けて、実践力も身につけていく。 この授業を通して、子どもと遊びの世界の面白さを一緒に共有しましょう。				
授業目標	①大人が主導するのではなく、子どもと相互にやり取りして一緒に創るあそび力を身につける。 ②一つの遊びをいろんな角度で見て、遊びの視野を広げていく。 ③パネルシアターの世界を体験し、実際に演じる力を身につける。				
到達目標1	授業内で自ら積極的に遊びに参加しようとする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	遊びへの積極度 30点 グループ討議への積極度 20点		
到達目標2	授業内容を理解し振り返ったり実践しようとする。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表への積極度 30点 振り返りシート提出 20点		
授業方法	○授業毎のテーマに合わせて実際に遊びながら学ぶ。 ○講師の実践経験談から、子どもと遊びの世界を知る。				
授業計画	1 授業の内容説明。 自己紹介。 あそび歌で遊んでみる。				
	2 一回目の復習をしながら、手遊びについて遊びながら考えたり、グループで創作する。				
	3 オンラインでのあそび歌を体験する。 また講師の実践エピソードからも考える。				
	4 ①～③で学んだことを活かしながら、グループごとに自分たちの遊びやすいあそび歌を見つける。 また、次回の発表に向けて、練習もする。				
	5 ①～③で学んだことを活かして、実際にあそび歌でのやり取りを実演発表する。				
	6 布を使ったあそび歌や伝承の布遊びに触れながら、身近な物で工夫して遊べることを知る。				
	7 昔懐かしい折り紙や紙を使った簡単なおもちゃを作って実際に遊びながら、紙の遊びの特性を知る。				
	8 日本や世界の様々なアナログゲームで遊び、その面白さを体験する。				
	9 子どもの言葉の言い間違い、子ども達と遊んでいるとでてくる「やりたい」「やりたくない」という言葉。 あそび歌の実践から、そんな子どもの言葉の魅力や奥深さについて考えます。				
	10 パネルシアターとはそもそもどんな教材?という基本的なことからまず知ろう。 講師のパネルシアターの実演を見て体験しよう。				
	11 3つの課題作品の中からそれぞれが選んだ作品を作ってみよう				
	12 グループに分かれて、自分の作ったパネルシアターを演じる練習をしてみよう。 発表に向けてグループ決めと話し合い。				
	13 あそび歌とパネルシアターをそれぞれ組み合わせて実演発表してもらうのでその準備日です。				
	14 発表に向けて準備を進めましょう				
	15 あそび歌とパネルシアターについて学んだことを活かしながら、グループごとに発表してもらう。				
必須テキスト	教科書はありませんが、パネルシアターのキットを授業内で別途購入してもらいます。価格は2000円程度です。				
参考文献	必要がある場合は授業内で紹介、もしくは資料として配布します。				
担当教員の 専門分野等	保育現場で正規保育士として6年の実務経験。 保育シンガーソングライターとして、あそび歌を通しての実践経験15年。 年間に180公演ほどの園であそび歌ライブを実施している。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習 講義		選択必修	講 師	高尾 優
授業概要	子どもの食と栄養の講義で学んだことを基礎として実際に献立の作成や調理を行う。乳児期から幼児期にかけて食事の形態がどのように変化していくのか、どのように調理するのか実習を通して学習する。 幼児の食の問題点について考え、食育を計画し、実施する。				
授業目標	1. 子どもの発育・発達と食生活の関連について実践する。 2. 保育における食育について考え実践する。				
到達目標1	子供の食について口腔機能の発達と食事形態を理解し、離乳食や幼児食が作ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	離乳食・幼児食実習への取り組みおよび課題の提出 (50点)		
到達目標2	子供の食の問題点について考え、問題を改善するための食育を行うことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	食育の課題の作成および発表 (50点)		
授業方法	子どもの成長の段階に合わせた調理実習。 食育の計画、媒体の作成、発表を行う。				
授業計画	1 オリエンテーション 栄養計算と献立作成について				
	2 献立作成実習 栄養バランスの取れた食事について考え献立を作成する				
	3 調乳、離乳食の説明				
	4 調乳実習				
	5 離乳食実習1 (5～6か月、7～8か月)				
	6 離乳食実習2 (9～11か月、12～18か月)				
	7 幼児期の食の問題点と改善方法について考える				
	8 食の問題点を改善するための食育を計画する				
	9 幼児食について考える				
	10 幼児食実習				
	11 食育媒体の作成を行う				
	12 アレルギーのある子どもの食事について考える				
	13 アレルギー食実習				
	14 食育媒体を作る・食育発表				
	15 食育発表				
必須テキスト	1年次の子供の食と栄養で使用したテキスト				
参考文献					
担当教員の 専門分野等	小児栄養学(食育・食物アレルギー)				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	合唱と合奏		選択必修 講義	講 師	白鳥 久代、鈴木 真智子、高山 美帆、藤村 秀子、山崎 洋子、渡辺 容子
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含めより良い支援の方法を身に付けていきます。前半7回をクラス全体授業とし、歌遊びや合唱の授業45分、その後A52教室に全員で移動し、ピアノのレパートリーのための自主練習に充てます。担当講師1名のため、活発に質問を行いながら進めてください。 6月からの後半8回は、小グループに分かれ、ピアノ個人レッスン(オンライン授業も含む)を行います。前半7回で自ら練習してきた内容をさらに深め、レパートリーを増やして保育実習に向けて実践力を養っていきましょう。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫して実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	全体授業では、環境、生活、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に付け、またハーモニー(合唱)を演習し、互いに聞き合い、協働の喜びを共有することが出来る。また授業後半の全員参加のA52教室・その他レッスン室での個人練習に意欲的に取り組むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	クラス全体での歌遊びや合唱への積極的参加(30点)・自主練習への能動的な取り組み(20点)		
到達目標2	個人レッスン(ピアノ等)では保育実習に向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2〜3曲弾くことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業日以外での積極的な自主練習と授業への積極的な取り組み(30点)・実技試験(20点)		
授業方法	・15回の授業の内、前半7回を歌遊び・合唱の全体授業、後半8回を小グループでのピアノを中心とした個人レッスン(オンライン授業も含む)に設定し受講していく。 ・基本的に15回目を実技試験とし、弾き歌い2曲を演奏発表する。				
授業計画	1 全体授業。オリエンテーション。15回の配分、進度表の書き方等の確認。 45分程で全体授業を終了し、A52教室へ全員で移動し、後半は個人練習を中心とし、適宜、担当講師による個人レクチャーを行う。				
	2 全体授業。現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)子どもの歌や合唱、リズム遊び等の演習。以下同様。				
	3 全体授業。以下同様。				
	4 全体授業。以下同様。				
	5 全体授業。以下同様。				
	6 全体授業。以下同様。				
	7 全体授業。以下同様。				
	8 ピアノ個人レッスン。初回ながらオンライン授業のため、対応できる電子ピアノ等の準備を必ず事前に完了しておきましょう。				
	9 個人レッスン				
	10 個人レッスン。				
	11 個人レッスン				
	12 個人レッスン。				
	13 個人レッスン。				
	14 個人レッスン。実技試験リハーサル等。				
	15 実技試験発表(個人レッスンの小グループで行います。)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください				
参考文献	日本児童教育専門学校編『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。日本ダルクローズ音楽教育学会、全日本リトミック音楽教育研究会会員。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育教材研究		選択必修 講義	講 師	加藤 ふじこ
授業概要	これまで獲得した基礎的な造形技法や、実習における実践的視点を踏まえ、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。 また、現場での子どもの造形活動における認識を深めるために、自ら「失敗を恐れず遊びの中で想像力を養う子どもの造形活動」を体験する。 これにより、造形活動の指導のポイントや子どもの表現活動の援助について学ぶ。				
授業目標	子どもの創作活動を迫体験し、想像力を広げる。将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。				
到達目標1	授業に参加し、保育教材としての造形を理解する。そして授業時間内に製作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		授業への参加。取り組んだ内容、回数で評価する(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点＋創意工夫5点	
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		作品提出(作品を撮影しteamsに画像を提出。提出回数やコメント、締切日厳守で評価する 45点 ＋その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等 5点	
授業方法					
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、コウモリ、クロネコの制作 2 イラスト練習:簡単な絵の描き方:季節の絵 3 絵画の援助:講義:レポート提出:苦手な子への援助等(オンライン) 4 お面づくり:画用紙等 5 衣装づくり:ポリ袋を使う。 6 レッジョの座学:講義:笑い顔と泣き顔 7 レッジョの実践①:屋外活動:自然物で絵画制作 8 9 感触を楽しむ:講義:レポート提出:泥遊び等(オンライン) 10 素材研究:ボンド:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整える 11 レッジョの実践②:光を用いた作品制作 光の絵本 12 お花紙を使った絵画製作 13 紙の加工:はらぺこあおむし 14 割ピンを使った動く工作 15 フィンガーペイントによる絵画制作				
必須テキスト					
参考文献					
担当教員の専門分野等	かとうふじこ:絵本作家、イラストレーター				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ		選択必修 講義	講 師	菊池 一英
授業概要	子どもの遊びは生活そのものであることを学びます。また、様々な遊びを通して、保育実践力を身に付けます。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	1. 様々な身体表現遊びを経験し、子ども達の前で柔軟に対応できるようになる。 2. 実技とDVD視聴により、様々な遊びの指導方法を身に付けることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技種目への貢献度(30点)身体表現遊びの表限度(20点)		
到達目標2	3. 企画会議に参加し、独自の運動会を計画・立案する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	企画会議への参加度(30点)運動会の企画立案のプレゼン力(20点)		
授業方法	実技科目に参加する。運動会企画会議を立ち上げ、企画、立案をプレゼンテーションをする。				
授業計画	1 ふれあい遊びいろいろ(ラブラブ握手他)				
	2 身体表現遊びいろいろ(洋風おべんと箱他)				
	3 野外での集団遊び(探検ビンゴ！)				
	4 身体表現としての手遊びいろいろ				
	5 野外遊びのいろいろ<お陽さまこどもクラブ実践DVD視聴>				
	6 集団遊びいろいろ(ワン、ニャン、プー仲間よ集まれ他)				
	7 独自の身体表現プレゼンテーション				
	8 水遊びいろいろ				
	9 身体表現まねっこ歩き(BGMに合わせて表現)				
	10 運動会に向けての企画会議(1)				
	11 野外でのロープ遊びいろいろ<DVD視聴>				
	12 運動会に向けての企画会議(2)				
	13 運動会に向けての企画会議(3)				
	14 運動会に向けての企画会議(4)				
	15 運動会に向けての企画会議(5)(プレゼンテーション)				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅡ		選択必修 講義	講 師	高木 秀文
授業概要	親しみのある画材や身の回りにある素材を使って表現活動する「造形」を子どもと一緒にあそぶように保育者自身も楽しめるための知識と技能を身につける。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	子どもの造形活動を深く理解して寄り添い、指導と同時に支援する行動を自ら取ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30点)、特定課題(事前告知)の仕上がり(20点) 意欲的な取り組みを評価します。		
到達目標2	季節や行事に沿った造形遊びのアイデア、引き出しを増やして子どもに向けた幅広い造形活動ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30点)、特定課題(事前告知)の仕上がり(20点) 意欲的な取り組みを評価します。		
授業方法	幼児期の絵画表現を再現して造形活動への理解を深める。 身近な素材を使った製作物を作り、成果を共有する。				
授業計画	1 オリエンテーション 授業内容、教材、用具、評価の説明。 児童画鑑賞とコメントの共有をします。				
	2 紙工作 頭身人形 人形の年齢、性格、キャラクターを反映させた人形を考えて作ります。				
	3 頭身人形のお話作り 2回目で製作した人形を共有し、グループ毎に人形を組み合わせたストーリー展開を考えます。				
	4 身近な素材を使ったおもちゃ 飲料などの紙パックを用いて年齢別に適したおもちゃを作ります。				
	5 朝と昼と夜の絵 幼児期に特徴的な多視点の表現の実例を観察し、実際に絵を描いて理解を深めます。				
	6 吊り下げ遊具メリー作り 乳児向けの遊具を紙皿や紙粘土を使って製作します。				
	7 飛び出すメッセージカード メッセージを送る相手と飛び出しの工夫を考えてカードを製作します。				
	8 吊り下げ遊具メリー作り2 6回目の製作の仕上げと作例の共有をします。				
	9 動物ワッペン 複数の動物の顔の特徴を活かして描き分けをします。				
	10 落ち葉の壁飾り 落ち葉、枯れ枝、木の実など自然物の形を活かした装飾を考えます。				
	11 音の出るおもちゃ ペットボトル、空き箱を用いた楽器あそびが出来るおもちゃを考えます。				
	12 まゆ玉転がし ビー玉を使って不規則に動くまゆ玉が転がる盤面を考えます。				
	13 型押し版画 スポンジと絵具ではんこ押しの連続模様を作ります。				
	14 絵本のお話の続きを考える 既成の物語のその後の展開や別の進行を考えます。				
	15 ペットボトルの万華鏡 ペットボトルの中に入れる材料が流動的に動く工夫を考えます。				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業内で適宜紹介します。				
担当教員の専門分野等	絵画制作。埋蔵文化財修復技師。幼稚園の課外造形授業、美術研究所の児童画教室の勤務歴あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	15 %	
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅱ		選択必修 講義	講 師	佐藤 博美
授業概要	・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む ・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う				
授業目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
到達目標1	・授業に必要な話し合いや発表に積極的に参加し、学んだ知識を活かして自己学習に取り組むことができる。 ・課題を期日内にきちんと提出することができる。 ・責任実習全日指導計画を書けるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	試験「責任実習全日指導計画」(30点)、課題提出(20点)		
到達目標2	・責任実習、部分実習のために保育教材の製作および指導案の立案が出来る。 ・模擬保育の実践発表を責任を持って行うことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	模擬保育の準備・発表(30点)、模擬保育指導案(20点)		
授業方法	・講義、演習(グループワーク)および実技・発表 ・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習				
授業計画	1 授業オリエンテーション(授業概要・目標・評価方法・持ち物等の説明) 2 主活動の指導計画 保育実習ⅠとⅡの違いを知る 3 指導計画について 4 個人票の下書き 5 保育現場職員とのワークショップ 6 模擬保育に向けて①(作って遊ぶ活動の選択/ねらい) 7 模擬保育に向けて②(教材準備) 8 模擬保育に向けて③(導入の意味) 9 模擬保育に向けて④(材料の配布・説明・遊びの展開) 10 試験と模擬保育の発表について確認 11 試験「責任実習全日指導計画」 12 模擬保育実践1 13 模擬保育実践2 14 模擬保育実践3 15 確認事項等(中間評価について、心構え)				
必須テキスト	保育実習指導1aでを使用した「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」				
参考文献	授業中に適宜紹介				
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	5 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅲ		選択必修 講義	講 師	東郷 結香
授業概要	1年次で経験した保育所実習、施設実習の振り返りと反省をし、次回の実習に向け課題を明確にして準備を整える。				
授業目標	1. 施設における保育者の役割、さらには保育者の専門性について理解する 2. 対象の状態を適切に理解し、対応、関わり、支援計画の立案ができるよう学ぶ 3. 自らの課題を明確にする				
到達目標1	保育実習Ⅰについて整理し、他者に発表を通して伝えることができる		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実習報告(20点)、対象者・支援特徴の整理(30点)	
到達目標2	保育実習Ⅲに向けた、自らの目標、課題の整理ができる		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	自らの目標、課題の言語化(20点)、対象者・支援特徴の整理(30点)	
授業方法	・個々人の実習報告をもとにディスカッション、指導を行う ・各施設の現場の先生をお招きした講義や、現場見学等、体験的に学ぶ				
授業計画	1 授業概要、授業の進め方、目標、評価等の説明				
	2 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる				
	3 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる				
	4 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる				
	5 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる				
	6 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	7 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	8 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	9 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	10 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	11 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる				
	12 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める				
	13 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める				
	14 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める				
	15 実習準備の仕上げ。 実習への備えを万全なものとする。				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業内で適宜示す				
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	15 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	5 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	30 %	